



絶縁カウンタ

DACS-2500KD-SCNT (CNTFH) -ISOの 汎用デジタル出力

絶縁カウンタユニット DACS-2500KD-SCNT (CNTFH) -ISO は、内部に使用している絶縁アダプタ基板 DACS-2570-C の部品実装上の都合にて、非絶縁タイプの DACS-2500K-CNT (SCNT) で使用可能な汎用デジタル出力bit11～bit0を利用することができません。

一方、デジタル出力bit23～bit12については、Mコマンドにてカウンタを動作させると、この後、これらのデジタル出力は、分周出力およびテスト用のパルス出力となりますので、結果的に、汎用デジタル出力が全く利用できないこととなります。

絶縁タイプのDACS-2500KD-SCNT (CNTFH) -ISO では、 デジタル出力bit23～bit12の動作を切替えることができます。

(注1) 1MHzクロック出力のbit3, bit0も同様の動作となります。

(注2) この機能は、DACS-2500KD-SCNT (CNTFH) -ISO のみ有効です。

このほかのカウンタ基板／ユニットでは無効です。

(1) デジタル出力コマンドのWコマンドを受信すると、デジタル出力bit23～bit12は、Wコマンドにて指定した出力となります。その後、Mコマンドを受信しても、デジタル出力bit23～bit12は、カウンタ関連の出力となることはありません。

(2) この逆に、ユニットの電源投入後、先にMコマンドを受信すると、出力bit23～bit12は、カウンタ関連の出力となり、その後、Wコマンドを受信しない限り、カウンタ関連の出力を保持します。

(3) デジタル入力の読取りのみを実行する場合は、W O R ☑ といい読取りのみを実行するコマンドを送信します。W O R ☑ にてデジタル入力の読取りのみを実行しても、デジタル出力bit23～bit12が汎用デジタル出力用となることはありません。

デジタル出力bit23～bit12、bit3, 0を、汎用デジタル出力とする場合

電源投入後、カウンタ用Mコマンドを送信する前に、デジタル出力用のWコマンドを、少なくとも1回、転送するようにしてください。

デジタル出力bit23～bit12、bit3, 0を、カウンタ機能出力とする場合

デジタル出力用のWコマンドを転送しないようにしてください。

デジタル出力bit23～bit12、bit3, 0を、 各bitごとに、カウンタ機能と汎用デジタル出力に使い分ける場合

次ページのXコマンドを使用して、各bit個別に指定してください。

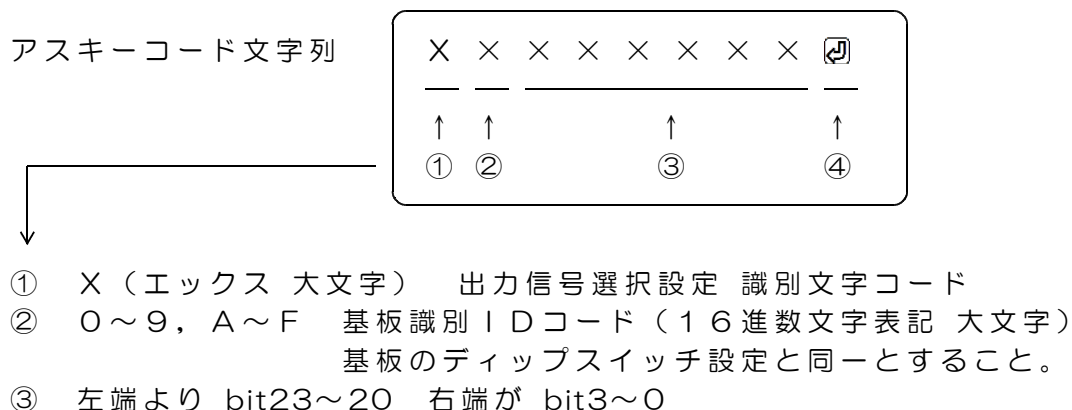
出力信号選択コマンド

(PC → DACS-2500K)

(注) 2018年5月以降出荷分で有効

デジタル出力信号を、各bitごとに、カウンタ機能出力に指定します。このコマンドで1を指定したbitは、Wコマンドでデジタル出力を指定しても変化しません。

電源投入時には、すべてのbit t が0となっています。すなわち、このコマンドにて全bitに0を指定した状態と同じになっています。



bit23~0 各bitにデジタル出力が対応しています。

bit23 : デジタル出力bit23の信号選択設定

0 : 指定なし (初期値) 1 : カウンタ機能出力



bit0 : デジタル出力bit0の信号選択設定

0 : 指定なし (初期値) 1 : カウンタ機能出力

- ④ 区切りマーク
アスキー OD (H) キャリッジリターンコード または & 文字コード
キャリッジリターン、または&文字のうちのいずれかを指定します。

このコマンドの応答は、先頭の識別文字がVとなったVレスポンスとして、受信したデータを、そのままのエコーとして返します。

応答例 V0001000Ⓜ 応答は不要な場合でも必ずホスト側で読取ってください。

製造販売

ダックス技研株式会社

ホームページ

<http://www.dacs-giken.co.jp>

DACS25KDCNT18427D